

国名	オーストラリア連邦 (Australia)	
主要な言語	英語 72%, 中国語 2.7%, アラビア語 1.4%, ベトナム語 1.3%, 広東語 1.2%, その他 15.7%, 不特定 5.7% (2021 est.) <sup>1)</sup>	
人口学的データ	総人口(人) <sup>1)</sup>	26,461,166 (2023 est.)
	15歳未満人口割合(%) <sup>1)</sup>	18.43%
	65歳以上人口割合(%) <sup>1)</sup>	16.69%
	平均寿命(歳)	83.28歳 男性 81.14歳 女性 85.54歳 <sup>1)</sup>
	5歳未満児死亡率(出生千対) <sup>2)</sup>	1
	妊産婦死亡率(出生10万対) <sup>1)</sup>	6
	中等教育就学率(%) <sup>3)</sup>	87.60%
主要な死因	1位 虚血性心疾患 2位 認知症(アルツハイマー型認知症を含む) 3位 脳血管障害 4位 肺がん 5位 慢性閉塞性肺疾患 <sup>4)</sup>	
主要な民族	イギリス人 36.1%, オーストラリア人 33.5%, アイルランド人 11.0%, スコットランド人 9.3%, 中国人 5.6%, イタリア人 4.6%, ドイツ人 4.5%, アボリジニとトレス海峡島民 2.8%, インド人 2.8%, ギリシャ人 1.8%, オランダ人 1.6% <sup>2)</sup>	
主要な宗教	プロテスタント 23.1%, ローマカトリック教徒 22.6%, その他のキリスト教 4.2%, イスラム教 2.6%, 仏教徒 2.4%, 正教会(Orthodox) 2.3%, ヒンズー教 1.9%, その他 1.3%, 無宗教 30.1%, 不特定 9.6% <sup>2)</sup>	
日本在留外国人 (%)	8,960名 (2021年12月調査) <sup>5)</sup>	
<b>文化社会的特徴</b>		
1. 特徴的な価値観・行動・生活習慣	地位や人間関係に関わらず、自分の主張は積極的に主張することが大事であるとする。オーストラリアでは相手の目を見て話を聞き、会話する。そうでないと無視されていると誤解されることもある。イエス、ノーをはっきりと自分の考えも率直に表現するので優柔不断の受け答えはあまり歓迎されない。同性愛者が人口の10%以上を占め、市民権を獲得していると言われている。マナーとしては、一般の人との会話で政治に対しての意見やどの宗教に属しているか、給料はいくらか、歳はいくつか、個人間の関係などの質問は極力控えるほうがよい <sup>6)</sup> 。	
2. 重要な意思決定にあたって留意すること	個人の考えを尊重する。自分なりの意見を持っていることが大事であり、自分で選択できることは良いことである。選択肢は多ければ多いほど良い。プライバシーの権利として、「個人や家族内の私事・私生活、個人の秘密、それらが他人から干渉・侵害を受けない権利」とともに「個人情報コントロールできる権利」を望む <sup>6)</sup> 。	
3. 食文化	オーストラリアの食文化は、伝統的にはイギリスやスコットランドの物である。穀物、肉食主体の食生活であり、主に羊肉、牛肉に温野菜が定番である。オーストラリアが多民族・多文化国家に変遷していく過程で、オーストラリアの食文化は、移住者が持ち込んだ料理、食材、楽しみ方に影響を受けている。器はテーブルに置いたまま持ち上げないことがマナーである <sup>6)</sup> 。	
4. 衛生に関する価値観	一般的にさっとシャワーを浴びて汗をながせばよいとする人が多い。また水不足からシャワーの時間を制限するキャンペーンなどもある <sup>6)</sup> 。	

5. 受療および病人のケアに関する価値観・行動	初めて出会った人同士でも苗字ではなく名前で呼び合う。すべての人が対等であると考え。サービスを提供する人もそれを受ける人も対等であるとし、一方が主で他方が従という認識をしないことが多い <sup>6)</sup> 。ケアの際は、必ず説明し同意を得ることが重要である。これは患者及び医療職者にとっても重要なことである。
6. 妊娠・出産に関する価値観・行動	ローリスクの女性は、希望すれば医療介入のないバースセンターで出産することも可能であるが全体の1割程度である。リスクのある女性は、助産師、産科医、リスクに応じた専門医のチームによって周産期の管理がなされ出産に臨む <sup>7)</sup> 。
7. 育児に関する価値観・行動	親の価値観で教育を子供に受けさせるのではなく、子供の自由な個性や能力、才能を尊重する。それらを伸ばすことのできる環境を作り出すことが、親の子供に対する教育であるという理念が一般的である。子供も家庭を構成する一員としてあらゆる作業や家事を分担することが当然として考える <sup>6)</sup> 。子供の小さな時から就寝時は個室で寝るようにすることが多い。
8. 高齢者に関する価値観・行動	可能な限り自宅で自立した生活をすることを望む場合が多い。ナーシングホームへの入所は最終手段とする場合が多い。
9. 終末期・葬儀に関する価値観・行動	オーストラリアでは事前指示書が法合化されている。18歳以上で意思決定能力を持っている場合、命に係わる病気や怪我をしたときに希望するまたは拒否したい治療やケアなどを記入する。医療専門家と家族は指示書に従わなくてはならない <sup>8)</sup> 。
10. 本国の医療職・医療サービスに関する特徴	医療を受けるには、まず総合診療医(GP)を受診し、GPが専門性の高い治療が必要だと判断すると病院に紹介する。腹痛、外傷、妊娠等々すべてGP受診から医療が始まる。血液検査やレントゲンも同様で、患者が血液検査を希望しても、GPがその必要性を認め、血液等検査機関(当地名はPathology)やレントゲン等画像診断施設(当地名はImaging)に依頼状を作成してもらわないと検査が受けられない。GPが入院や手術、専門性の高い治療が必要と判断すると、病院(一部開業の専門医もいます)に紹介され、専門的な医療を受けることができる <sup>9)</sup> 。
11. その他の保健医療に関する特徴	特にかかりやすい病気というようなものはないが、オーストラリア首都特別地域/キャンベラは、乾燥が強いため、これに伴う皮膚の疾病が多い傾向にある。また、オーストラリア人に皮膚癌が多い。原因として、紫外線が強いためと言われている <sup>9)</sup> 。
12. 教育制度	小学校:7~8年 中学校:3~4年 高等学校:2年 大学:3年 6歳から16歳までが義務教育 <sup>10)</sup>
13. その他の特徴	

14. 出典	<p>1) CIA, THE WORLD FACTBOOK 2023, <a href="https://www.cia.gov/the-world-factbook/countries/australia/#people-and-society">https://www.cia.gov/the-world-factbook/countries/australia/#people-and-society</a></p> <p>2) UNICEF, 世界子供白書, 2021, <a href="https://www.unicef.or.jp/sowc/pdf/UNICEF_SOWC_2021_data_U5MR.pdf">https://www.unicef.or.jp/sowc/pdf/UNICEF_SOWC_2021_data_U5MR.pdf</a></p> <p>3) Knoema, オーストラリアー純就業率 中等、2014, <a href="https://jp.knoema.com/atlas/%e3%82%aa%e3%83%bc%e3%82%b9%e3%83%88%e3%83%a9%e3%83%aa%e3%82%a2/topics/%e6%95%99%e8%82%b2/%e4%b8%ad%e7%ad%89%e6%95%99%e8%82%b2/%e7%b4%94%e5%b0%b1%e5%ad%a6%e7%8e%87">https://jp.knoema.com/atlas/%e3%82%aa%e3%83%bc%e3%82%b9%e3%83%88%e3%83%a9%e3%83%aa%e3%82%a2/topics/%e6%95%99%e8%82%b2/%e4%b8%ad%e7%ad%89%e6%95%99%e8%82%b2/%e7%b4%94%e5%b0%b1%e5%ad%a6%e7%8e%87</a></p> <p>4) Australian Institute of Health and Welfare, Deaths in Australia, 2022, <a href="https://www.aihw.gov.au/reports/life-expectancy-death/deaths-in-australia/data">https://www.aihw.gov.au/reports/life-expectancy-death/deaths-in-australia/data</a></p> <p>5) 独立行政法人統計センター, e-Stat 政府統計の総合窓口 統計でみる日本 国籍・地域別 在留資格(在留目的)別 在留外国人, 2022, <a href="https://www.e-stat.go.jp/stat-search/database?page=1&amp;layout=datalist&amp;toukei=00250012&amp;tstat=000001018034&amp;cycle=3&amp;tclass1=000001060399&amp;tclass2val=0">https://www.e-stat.go.jp/stat-search/database?page=1&amp;layout=datalist&amp;toukei=00250012&amp;tstat=000001018034&amp;cycle=3&amp;tclass1=000001060399&amp;tclass2val=0</a></p> <p>6) 田中豊裕, 異文化理解とオーストラリアの多文化主義, 大学教育出版、2019</p> <p>7) 谷口千絵, オーストラリア、ニューサウスウェールズ州の助産師の活動とジョン・ハンター病院のマタニティサービス視察報告, 神奈川県立保健福祉大学誌, 18(1)75-81, 2021</p> <p>8) Australian Government, Department of Health and Aged Care, Advance care directives, 2019, <a href="https://www.health.gov.au/health-topics/palliative-care/planning-your-palliative-care/advance-care-directive">https://www.health.gov.au/health-topics/palliative-care/planning-your-palliative-care/advance-care-directive</a></p> <p>9) 外務省, 世界の医療事情 オーストラリア, 2020, <a href="https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/oceania/australia.html">https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/oceania/australia.html</a></p> <p>10) Australian Government, Australian Trade and Investment Commission, オーストラリアの教育, 2022, <a href="https://www.studyaustralia.gov.au/japanese/australian-education/education-system">https://www.studyaustralia.gov.au/japanese/australian-education/education-system</a></p>
--------	---

担当者：氏名（所属）高井ゆかり（群馬県立県民健康科学大学）  
承認日：2023年3月15日